PIIA Knots
Public Interest Incorporated Association
公益社団法人ノット
Knots NEXT 'One World, One Life'
公益社団法人Knots ノット・結び目
WEBサイトhttp://knots.or.jp

- 公益社団法人Knots（結び目）は、「人と（ヒト以外の）動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。
- Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

〔今号のメッセージ〕

大阪公立大学　獣医学部
小動物臨床医学
准教授　島村俊介先生

動物との新たなコミュニケーションを求めて

動物と人の対話と聞くと、ロフティングによる児童文学『ドリトル先生』が思い浮かびます。オウムから動物の言葉を教えられたドリトル先生が、動物を連れて世界を旅する物語です。

それ以前にも、桃太郎をはじめ御伽話の世界では人が動物と会話する様子がよく描かれてきました。時代を超えて人が動物との会話を夢見てきた証ではないでしょうか。

諸説ありますが、犬が人と共生するようになって1万年以上の歴史があるといわれます。お互いの能力が自然を生き抜くために結びついた共生関係は現在も変わらず続いているようにも見えます。

しかし、科学の進歩により必ずしも生き抜くために犬の能力を必要としなくなった現代において、人と犬の共生関係は変わらず同じといえるでしょうか?

現代社会における動物は、人の生活におけるよき伴侶へと役割が移行しているように感じます。「生存すること」を目的としていた関係が「よりよく生きること」を目的とする関係に移行した今、あらたな対話方法を模索する時期がきているように思います。

そこで、私は対話を深める方法の一つとして、心拍情報からストレスを評価する心拍変動解析に着目しました。人を含めた動物は興奮すると心拍が速くなり、リラックスすると心拍が遅くなります。

この心拍の変動から『心の動き』を推測する手法を犬に応用するべく研究を続けています。

写真の説明：
心拍数を収集するためのウェアを犬に着せている。
動物の心拍数の変化は心の動きを反映している?

人と動物の長きに渡る関係は、表情やしぐさによる対話を可能にしてきました。ここに心拍変動による『心の動き』を加えることができれば、関係をアップデートできると考えています。

太古、人は動物と共に厳しい自然を乗り越えました。また、多種多様な動物たちがそれぞれの持ち味を生かして数々の苦難を乗り越える夢をドリトル先生の物語に見ました。

動物との会話の夢に象徴されるのは、人の可能性の広がりへの確信であると信じ、日々研究を続けています。